

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(特活) 京都コリアン生活センター エルファ

◆在日コリアン一世への思いが生んだ、多様性が尊重される場所

デイサービス、障がい者支援等の事業所などを運営する京都市のNPO法人京都コリアンセンター（以下、エルファ）。大変な苦労をされてきた一世の方が、人生の最後にいい思い出たくさんあったと思ってもらえるような時間を共有したいという気持ちで「エルファ」という名前に込められています。事務局長の南珣賢さんにお話を伺いました。

介護保険が始まった2000年、在日コリアン一世の高齢者の方々が制度を利用できるよう支援しようと、二世の女性たちが立ち上がりました。日本の社会保障制度に国籍条項があった時代に保障を受けずに生きてきた方々が、この制度をうまく活用できるのかを心配したのです。既存の施設を見学して回った際



同志社大学の学生との交流

に、どの施設でもコリアンであることを職員が知らないままに孤立している一世の高齢者を見かけたそうです。字が書けないことが恥ずかしくてレクリエーションの時間になるといつも帰ろうとするおじいさん。日本人の職員は字が書けない人があるとは思ってないのでその理由に気が付きません。また、「日本語を話して朝鮮人だとばれたら馬鹿にされる」と話さないことを選んで生きてきたおばあさん。この方は見学に来た女性たちと韓国語で話し出すまで、施設では失語症かろうあ者と思われていました。こういった状況を目の当たりにして、制度について説明するだけではなく、この方々の言葉や習慣、苦労を知っている二世、三世が直接介護する必要があると考え事業が立ち上げられました。

現在、高齢者は一世から、言葉や文化的背景が日本である二世に移り変わっています。それとともにエルファの利用者は、在日コリアンだけでなくニューカマーと言われる方々、中国ルーツの方々など多様化しています。また、エルファの障がい者支援の作業所では、一般的な作業所と違い、障がいの種類によって排除することなく全障がいを受け入れています。南さんは「様々な国にルーツを持つ人がいて、高齢者も障がい者も一緒に共生している、これが社会の本来の当たり前の姿。エルファはそんな姿の小さな町のような存在でありたいと思います。」と語っていただきました。

施設内の共生ではありません。見学者や研修を受けに来た外から来た人と接する機会も大事にされています。これが利用者にとっては生きがいを感じられる、何よりもレクリエーション。コロナ禍でそれが途絶えていることが一番の痛手だと南さんは言います。今後はリモートで受入れができないかと模索しているそうです。社会が大きく不安定になると、お互いが理解し合える機会も減り、分断や弱者への攻撃に向かってしまう恐れもあります。共生社会をめざすためには、あらゆる人が語り合える場、理解しあえる機会を作り続けていくことが必要だと南さんのお話を聞いて感じました。

エルファのウェブサイトはこちらから <http://lfa-kyoto.org/>



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(特活) SEMIさっぽろ

◆命を守る医療通訳～熱意ある若者が活動が続けられるために

札幌市で外国人のための英語の医療通訳者派遣活動続けるSEMIさっぽろ（以下、SEMI）の寺尾恵代表理事にオンラインでお話を伺いました。

SEMIの活動は医療通訳者派遣事業だけでなく、ウェブサイトで外国人に有益な医療情報を英語で発信したり、札幌国際プラザと共催で病院関係者対象の医療英語のセミナー、外国人対象の子育てセミナー、勉強会を開催しています。札幌市内の病院では研修医対象の出張講座も実施しています。また札幌市国際部と連携して医療通訳者を派遣する外国人医療受診サポートモデル事業もおこないました。設立以来12年間で5700件以上の通訳派遣を実施してきたSEMIは、通訳の「質」を保ち、高めるための努力・研鑽にも力をいれています。毎週メンバーが集まって勉強会を開き、日々進化する医療知識を学んでいます。通訳者は海外の風習や宗教についての知識も必要ですが、通訳支援を受けた留学生が、「自分の国の事情や文化、医療状況について知ってほしい」と感謝の気持ちから勉強会に参加して講義をしてくれることもあります。



メンバーの通訳で、助産師さんによる赤ちゃんのケアに関するセミナーを開催

活動当初のボランティア活動から、徐々に通訳に報酬が支払われるようになったものの、まだ無償で当たり前という風潮は改善されていないようです。適切な報酬がなければ若い人は活動が続けられず、メンバーの高齢化の要因にもなります。主婦、英語教師、歯科医師、通訳案内士など職業は様々ですが、SEMIの活動のみで生計を立てられる人はいません。本業がコロナの影響を受け、団体活動の継続が難しくなる方も出てきました。これでは熱意があっても活動が続けるのは難しいことです。

通訳者の問題だけではなく、「米国では病院が医療通訳者を付けることは、訴訟を防ぐ“危機管理”であると同時に、言語によって医療アクセスが制限されるということがあってはならないという人権意識です。日本で医療機関が通訳の費用を負担するのは難しく、ここには行政の主導が重要だと思います」と寺尾さんは言います。母国語であっても病気や体について理解するのは難しいこと。それが外国語であれば、命に関わる場合も出てくるでしょう。寺尾さんのお話を聞いて、日本に住む外国人が安心して暮らすためになくてはならない医療通訳の一層の拡充が必要だと改めて感じました。

SEMIさっぽろのウェブサイトはこちらから <https://semi-sapporo.com/welcome-to-npo-semi-sapporo-ja/>

◆ ウェブサイト / 情報掲示板 リニューアル公開のお知らせ！！

市民国際プラザのウェブサイトが新しくなりました。多文化共生、国際協力、SDGs などに関する様々な情報を発信中です。また団体様向けに情報掲示板も運営しています。是非ご登録の上、ご活用ください。

ウェブサイト：<http://www.plaza-clair.jp/>

情報掲示板：<https://theshare.info/clairjanic/>



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！ ♪

